



津田のぼる & 吉川潔

立体造形二人展

森に棲む・まちに生きる

2025年 **7月5日** **土** ~ **8月31日** **日**

休館日：月曜日（月曜が祝日の場合は開館し、火曜休館） 無料駐車場あり

南牧村美術民俗資料館

開館時間：9:00 - 16:30（最終日 14:00 終了）

入館料：大人 300 円 / 高校生以下無料

お問い合わせ：南牧村美術民俗資料館（TEL 0267-98-3288） 南牧村教育委員会（TEL 0267-96-2104） / 主催：南牧村教育委員会

立体造形二人展 森に棲む・まちに生きる

従来の彫刻とは異なる、新しい立体のジャンルを切り拓く二人を紹介します。

『缶嚮造形』と銘打つ津田のぼる氏は、廃品となった缶を主な素材として人間（妖精）、建物（お城）などを多彩に造形して来ました。それらが集合すると、とても楽しい都市空間となります。ボトルのキャップを曲げるだけで顔になったり、お菓子の空き缶が重厚な建造物になったりします。作家は空き缶を廃材とは捉えずに、美しい素材として感じています。元々の形や金属の質感にとっても惹かれています。そしてそれらが分断の無い世界となり、エンドレス（終わりが無いこと）になります。どこまでも増殖する津田のぼるの世界観。そこには市井に生きる人々（私達）の喜怒哀楽があります。

木彫と人形のはざまに位置する吉川潔氏の作品は、森に棲む妖精の世界を展開します。ジャンルに自分を当てはめるのではなく、表現したいことを追求した結果、新しい自分のジャンルが創出されて来ました。そしてそれは単なるファンタジーを超えて人間社会に対する警告ともなって胸に迫ります。命の尊さ、親子の愛など、昨今薄れつつある普遍的な価値観を切実に謳い上げています。博報堂の財団で仕事として絵本に携わり、その延長上で人形劇・舞台美術を学ぶためにチェコスロバキアに留学もしました。

元々二人はイラストや絵画など、二次元での表現から始めました。津田氏の半抽象的な油彩大作は評価も高かったですし、吉川氏も絵本・イラストから仕事をスタートさせました。作家後半戦に立体造形に移行したのは、やむにやまれぬ衝動があったからでしょう。そしてその結果生み出された作品群は、人生全ての経験が生きた味わい深いものになりました。

どうぞこの機会に二人の渾身の世界をご覧になって下さい。そして楽しんでいただけたらとても幸いです。



Tsuda Noboru 津田のぼる

1975 年

東京造形大学美術学科卒業

その後内地留学で

上越教育大学大学院を修了

2000 年頃～

缶嚮造形を始める

2013 年より

アンデルセン公園子ども美術館に作品が
常設展示されている。

東京造形大学講師、船橋市小学校校長などを
歴任する

個展・受賞多数

現在東京展美術協会運営委員

Yoshikawa Kiyoshi 吉川潔

1972 年

慶應義塾大学経済学部卒業

1975 年～

人形・舞台美術を多数手掛ける

1974～1975 年

チェコスロバキア国立芸術大

演劇学部人形劇科に留学

2010～2022 年

大阪芸術大学客員教授

国立市に『アトリエ・パネンカ』を開設し作
品常設。（常に 200 点）

個展・受賞多数

現在東京展美術協会運営委員

南牧村美術民俗資料館

〒384-1305

長野県南佐久郡南牧村野辺山 79-3

☎ 0267-98-3288 <http://www.ytg.janis.or.jp/~bijyutsu/>

標高 1345.67m、鉄道 JR 線の中では一番高い所に位置する野辺山駅から徒歩 3 分。南牧村美術民俗資料館の美術館ではジャンルを問わずさまざまな作家の企画展をおこなっています。また、美術館に併設の民俗資料館では、日本で初めて発見された矢出川遺跡群の細石器の数々や、志なの入遺跡で発見された約 6000 年前の縄文時代の人骨、八ヶ岳に生息する鳥類の剥製、古人の使用した農具や家具、民具などが多数展示され、南牧村の自然や文化をより深く体感することができます。

会場までのアクセス

電車

JR 佐久平駅
JR 小淵沢駅 → JR 野辺山駅徒歩 3 分

自動車

中部横断自動車道 - 八千穂高原 I.C. から約 35 分
中央自動車道 - 長坂 I.C. から約 25 分
国道 141 線沿い「銀河公園」内



map

※無料駐車場あり
（普通車 20 台、大型車 3 台駐車可）

